

カナダの マリファナ問題

—1960年代から続く熱い議論

危険ドラッグが注目される日本は
カナダの経験から何を学べるか

カナダでは1960年代よりマリファナの使用をめぐって世論が割れていた。マリファナを無害と認識する若者や医療関係者の一部はその合法化を望んできたが、警察、子供の保護者、宗教関係者はそれを健康と社会価値に悪影響を及ぼすものと認識し、抑制を望む。2006年までの自由党政権下では、娯楽目的を含むマリファナ使用の合法化は実現しなかったが、比較的マリファナの取り締まりが緩く、2001年、医療目的のマリファナ使用は合法化された。現在、カナダの保守党政権はマリファナ使用を制限する政策を打ち出す一方で、米国の方では、逆にマリファナを合法化する州が出始めている。カナダは米国に影響されるのか・・・カナダのマリファナ問題の行方が注目される。

講師：マルセル・マルテル氏
(カナダ・ヨーク大学教授)

日時：10月14日(火)
4限 15:10～16:40

会場：4号館 301 教室

使用言語：英語 ※適宜、日本語による解説あり

司会・解説：矢頭 典枝 先生

(英米語学科准教授・当研究所副所長)



カナダ・ケベック州ケベック市出身。ケベック州ラヴァル大学卒業後、オンタリオ州ヨーク大学で修士号および博士号取得(歴史学)。現在、ヨーク大学歴史学部教授。専門分野は、フランス系カナダ史のほか、最近では、1960年代の若者文化、カナダにおけるマリファナ問題、国家による反体制文化監視をめぐる議論、など現代カナダの社会問題に関する研究を多く輩出している。

Professor Marcel Martel